

学校財務実践事例集 2013

事務職員の学校財務運営と教育環境整備へのかかわりを深めるため、全国各地における学校財務の工夫等の実践事例レポートを募集しました。

本年は若年層事務職員も学校財務運営に取り組みやすくするため、経験5年目までの方や、「初めて挑戦した」等の実践事例も募集しました。

11支部34件の応募をいただき、各地でさまざまな取組をされている様子が見えましました。

応募いただいたレポートの概要は次のとおりです。

学校財務実践事例集2013は、全事研Web会員ルームで公開しています。
昨年までの事例集もすべて御覧いただけます。

<http://zenjiken.jp/>

全国公立小中学校事務職員研究会

学校財務実践事例集2013 応募一覧

レポートのすべてを、全事研Web会員ルームで公開しています。

No.	タイトル	アプローチの相手	実践レポート概要
1	小・中学校連携で つなぐ「学校財務」 つたえる「学校情報」	管理職 教職員 保護者 児童生徒	中学校区において、小中連携授業を参観することにより、授業で使われる教材教具等を確認した。その後、「村学力向上推進会議だより」に、授業参観のことが紹介された。また、小学校と中学校の互いの情報を共有することにより学校に対する理解を深めてもらう手立てとして、「小平小・中学校ガイド」を協同で発行し、保護者等へ配付した。
2	「正確な事務処理をめざして」 ～充実した予算委員会～	教職員	要点：年7回の予算委員会の様式づくり 効果：資料作成にかかる時間の短縮ができた。 また学校配当予算以外の各担当が行っている事務について共通理解を図るよい機会となった。
3	児童に向けた「ミニ講話」の実践から ～子どもと教職員と事務職員が つながる学校財務～	児童生徒 教職員	事務職員の学校財務への関わりを通して、学校におけるお金の流れを子ども向けに説明したり、今年度整備された備品等の紹介を全校で行った。よりよい教育環境づくりについて子どもたちや教職員とともに考える良い機会となった。
4	事務職員が作ったクイズに挑戦！ 学校の水道代・電気代って？	児童生徒	学校事務の仕事について、すこしでも児童生徒に興味をもってもらい、知ってもらおうところからはじめようと、見た目ですぐにわかりやすく、子どもが興味を持ちやすいクイズを掲示した。
5	鳴門市第一中・第二中グループの 取り組み	教職員	主に今年度グループ研修で実践したことや各学校での財務ウィークでの取組
6	学校事務グループ10校で取り組んだ 電気・水道使用量削減	児童生徒 教職員	学校事務グループの取組として、事務職員未配置の2校を含む10校すべての学校で、平成23年度から平成25年度の3年間の電気及び水道水の使用量をグラフ化して廊下等に掲示し、児童生徒及び教職員に節電・節水の協力を依頼した。
7	支部Webでの情報発信と 「学校財務ウィーク2013ふくしま」 ～「羅針盤NEWS」で思いをつなぐ～	教育委員会 校長会 学校間 教職員 会員間	支部Webで「羅針盤NEWS」を週1回更新し、学校財務情報などをタイムリーに提供し、会員のレベルアップを図っている。 また、学校財務にかかわる研修会を開催し、学校財務改革の課題と取り組みについて研修を深めた。「学校財務ウィーク」を支部として1か月に設定し、学校財務に関する取り組みの啓発を図った。

No.	タイトル	アプローチの相手	実践レポート概要
8	組織で取り組む学校財務改革 ～町教委・校長会・教頭会・教職員との連携・協働をとおして～	教育委員会 校長会 教頭会 学校間 教職員 会員間 児童生徒	「西会津町学校事務改善委員会」の設置を契機に、課題を共有し組織で取り組むことが重要ととらえ、4つの組織で連携・協働による活動を進めた。 「西会津町学校事務改善委員会」においては町教委や校長会とともに口座振替システムの改善、予算要求の在り方、各種取扱規程の提案などに取り組んだ。「西会津小・中学校連携」では事務職員未配置校への事務支援、保護者向け小中学校ハンドブックの発行、教育課程と予算編成の一本化に取り組み、「西会津小学校」「西会津中学校」では校内教職員と共に、校内会計のシステム化や補助教材の反省・評価、パネル展示をとおした学校財務の啓発活動を行った。
9	「連携・協働」で学校事務機能を強化 ～つながることが学校事務を変えた～	教育委員会 校長会 教頭会 学校間 教職員 会員間 児童生徒 保護者	文書管理・備品管理事務の規程化、予算編成の見直し、校内会計のシステム化、学校事務情報の発信など、会員間、地教委、学校間、教職員などとの連携・協働により、単数配置では無理であった学校事務の課題解決が図られるとともに学校事務機能の強化につながった。
10	予算的裏付けのある教育課程編成 ～教育活動と学校財務をつなぐカリキュラム経営への参画～	村教育課程研究ワーキンググループ 管理職 教職員 児童生徒 保護者	平成25年度校内教育課程編成会議における事務職員の提案を、「村教育課程研究ワーキンググループ」で検討した結果、村内全小・中学校の教育課程編成届「各教科年間指導計画」の様式に、「教材教具等」の欄が設けられた。様式が教育活動と学校予算の結びつきが明記されたものに改善されたため、26年度も予算的裏付けのある教育課程の編成が継続して行われている。本校の平成26年度教育課程編成でも、「計画全般において、予算の裏付けを考慮した計画を立てるとともに、意義ある執行がなされたかを振り返り、それを基に計画する」ことが重点事項の一つとなり、編成組織に事務職員が「企画委員会」「教科指導委員会」「管理・予算委員会」に位置付けられた。また、学校財務の統括者として、校内会計事務のシステム化、生徒アンケートの実施、学校財務情報の積極的な提供、掲示板での情報発信などを行い、開かれた学校・信頼される学校づくりのために努力した。
11	三芳町における学校財務の取り組み ～教育委員会との連携を中心に～	管理職 教育委員会 教職員	学校財務マニュアル、小中学校備品管理マニュアル、「三芳町小・中学校学校徴収金取扱様式集・Q&A」などの作成、活用による事務処理の平準化。
12	学校・地区組織力を生かした 学校事務改善	教職員 PTA 保護者	焼津市の地域事務室・共同実施を活用した校内の学校徴収金改善。改善内容は、学年費の増額改定と業者への支払い振込化について。増額改定に関しては、教職員、PTA、保護者への提案経過について説明。
13	安全・安心の楽しい学校をめざして ～学校事務職員だからできること～	PTA 児童生徒 教職員	標準的職務の通知やコスモスプランといった指針は読んだだけでは理解しにくい。校長・教頭が求める学校事務職員の役割、学校経営への参画とは何だろうか。行政職員の学校事務職員だからできること、今、学校で実践できることから始めた。

No.	タイトル	アプローチの相手	実践レポート概要
14	防災と収納の両立のために	教育委員会 管理職 教職員 児童生徒 保護者	ここ数年、耐震状況を理由とした物置・旧校舎等の取り壊しにより、学校の収納状況が悪くなってきている。それに反して、防災のために今までにない備蓄が必要になり、購入・管理をしなくてはならない。市の防災倉庫とは別になるので、どのように運用していくか取組をした。
15	事務職員から教職員へ そして子ども達へ ～掲示資料を利用したアプローチ～ ①光熱水費削減をめざした掲示の作成 ②「学校予算」を簡単に説明した掲示の作成	教職員 児童生徒	水道、電気の使用量をグラフ化し、節水節電を呼びかける啓発資料と、学校予算をわかりやすく説明した掲示資料を市内全校で統一して作成し、教職員や子ども達に働きかけた。省エネを意識付けられただけでなく、学校間連携ならびに事務職員への評価にもつながった。
16	学校間連携から予算の有効活用 町バスの利用促進から 保護者負担軽減へ	教育委員会 教職員 会員	地教委と予算説明会での話し合いにより、町所有バスの宿泊を伴う校外学習等や北信越等の生徒送迎県外利用が可能になった。学校間連携や校内での教職員同士の話し合いにより町所有バスの有効活用ができるようになった。そのため、保護者負担のバス費用の集金が減り、保護者の負担軽減に繋げることが出来た。
17	開かれた学校財務への取り組み 共同実施を通して ～1人ではできないことも みんなの力で～	P T A 教職員	<ul style="list-style-type: none"> ・就学援助制度や児童手当からの学級費等の徴収について学ぶ *各学校に持ち帰り説明することで該当の保護者へ呼びかけることができた。 ・教頭・事務職員が連携しての予算要求 *事務職員だけでは気づけなかった新たな気づきを予算要求につなげることができた。 ・保護者向け「学校事務共同実施だより」の発行 *共同実施や学校予算について保護者に啓発することができた
18	「G那賀よし」の挑戦！	教職員	グループで実践した普段の取組の紹介
19	電気・水道使用量削減に関する取組 ～掲示資料の改善～	児童生徒 教職員	3年間継続して掲示している電気及び水道の使用量グラフの内容がマンネリ化しているので、水道使用量グラフが大きく変化したことに焦点をあて、施設営繕作業中の写真と破損した水道パイプと一緒に掲示して生徒及び教職員に関心をもってもらおうよう掲示内容を工夫した。
20	使用電力量の「見える」化による節電の取り組み	教職員 児童生徒	電力量監視装置の導入による、消費電力と電気料金削減への取り組み。消費電力を数値で表す「見える化」により省エネへの意識が職員や児童に高まった。
21	学校財務（公費・学校集金）の有効的・効果的な運用をめざして	管理職 教職員 事務職員	学校財務を効果的かつ適正に運営していくために、共同実施の活動を通して各学校で実践してきた。これにより、財務活動の構築、共同実施だより（紫陽花）の発行、学校集金の課題解決やマニュアル作り等、業務の効率化に向け成果が図られた。

No.	タイトル	アプローチの相手	実践レポート概要
22	会計事務における学校運営支援の実践と提案 ～教材費等の一括管理を通して～	教職員	教材費・学級費の会計管理を集約し、一冊の通帳で運営を行い、業務の効率化を図った。各会計を、統括・支援することで、教員・事務職員相互の、業務軽減を行うことができた。実践を基に、学校財務の視点から、今後の学校運営支援の在り方について、展望を示すことができた。
23	学校におけるデジタル音響機器のあり方についての一考察	教職員 児童生徒	大画面テレビとDVDプレーヤーを用いた教員の意識改革の取り組み。
24	予算要求事務の適正化を目指して ～教員、事務職員、 教育委員会との連携～	教職員 教育委員会 事務職員	予算要求書の様式作成や予算要求に関する説明会の開催を通して、教育委員会と連携した予算要求事務をすることができた。また、教員と連携することで学校教育目標やスクールプランを意識した予算要求に取り組むことができた。
25	Let's 財務！ ～共同実施経営計画をもとにした 学校財務への取組～ PartⅢ	管理職 教職員	<ul style="list-style-type: none"> ・財務情報を共有し、教育活動に結び付けるとい目標達成のため、「総会計予算」「予算計画を起案に盛り込む」の2つに取り組んでいる。 ・学校預り金の未納解消に向けて、グループ運営委員会の機会を利用し、教頭と共通理解、連携を図ることができた。
26	学校徴収金事務へのかかわり	教職員 保護者	地区内の学校の事務の適正化を進めるため、また教員の事務負担の軽減を図るために、事務室が学校徴収金事務に取り組んだ。効率化、統一化を図るため会計ソフトなどを導入した結果、様式の統一化も進んだ。教員からも高い評価を受けている。
27	職員の前算に対する意識の向上に関する取り組み等	教職員	教員の事務負担軽減や、効率的な予算執行を行うために執行状況閲覧システムの作成に取り組んだ。その結果、教員が正確に予算要求をするようになり、取りまとめ時間の短縮になっている。
28	生徒の声を予算執行に反映させよう！ ～事務の日を利用した アンケートの実施～	児童生徒	事務の日が実践を行う良い機会ととらえ、生徒へ学校改善アンケートを実施した。生徒目線での必要物品や修繕箇所を知ることができた。
29	児童とともに考える ～電気・水 大事に使っていますか？～	児童生徒	学校の今年と過去3年間の電気と水の使用量をグラフ化したものと、節電節水クイズを掲示し、わたしたちの生活の中に当たり前のようにある電気や水道を大切に使用することを児童に働きかけ、節電節水を心がけるきっかけをつくる。
30	コピー印刷機器へのカウンタ管理を通じて学んだ大切なこと	教職員	毎日使用するコピー使用量が町会計を圧迫している現状を教職員に説明し、協力を得ることができた。コピー機のカウンタ管理をすることで、大きく経費の削減につながった。仕事をしていく上で、日頃から教職員間のコミュニケーションを十分とり、信頼関係を築くことの大切さを学んだ事例としてまとめた。
31	学校事務職員からの情報発信に初挑戦！	児童生徒 教職員	新たに、「新 学校版環境 ISO」に認定されたことで、今までの取組に改善を加えながら日々実践を行い、児童・職員はもとより保護者や地域等への情報発信をしている。

No.	タイトル	アプローチの相手	実践レポート概要
32	学校予算・徴収金事務の効率的執行	教職員	<p>①光熱水費等の執行状況を提示し、節約の意識付けを図った。</p> <p>②市費予算執行状況の提示をし、効率的な予算の執行に努めた。</p> <p>③徴収金事務に関わり、担当者の負担減を図り、徴収金事務の透明化・適正化を図った。</p>
33	学校事務の一覧について	教職員	<p>教員の事務負担軽減につながるよう市内の事務職員で「学校事務の一覧」の作成に取り組んだ。新規採用職員や臨時採用職員を中心に、仕事を理解する際に非常に役立つことができた。</p>
34	校内会計マニュアルに基づく学級会計の取り扱い	教職員	<p>校内会計マニュアルに基づき、全学級同一の会計ソフトを用いて学級会計の取り扱いを行った。学級会計に対する意識の高まりが見れ、会計簿についても随分見やすいものとなった。</p>